令和８年度　北海道雨竜高等養護学校　グランドデザイン（学校教育全体構造図）

令和８年４月１日

〈社会情勢〉
- 激しい変化、少子高齢化、人手不足、多様性、物価高
- インクルーシブ教育、特別支援教育、学びの多様化
- 特別な支援を必要とする児童生徒の増加
- 適切な就学の場の決定、通級指導
- 将来の予測が困難な時代
- 高等部の在り方、センター的役割
- ICT、生成 AI の急速な発達と利活用　　等々

〈生徒の実態〉
- 知的障がい、多様な実態や困り感、断片的理解、成功経験の少なさ、コミュニケーション
- 寄宿舎生、通学生

〈保護者の願い〉
- 安心･安全、健康、落ち着き
- 自立、進路
- 生活力の向上　等　ニーズの多様化

〈学校所在地域〉
- 地域の特徴（少子高齢、過疎、人口減少）
- 自然環境（湿原、水田、豪雪）
- 社会資源の厳しさ（人的、物的、交通）
- （幼･保）･小･中とのつながり
- 町からの教育活動への支援、学校への期待

【子ども主体、地域とのつながり、実生活との関連】
主体的　⇒　生活とのつながり、環境（教材･教具、ICT、人）、自ら学ぶ（見守る姿勢）
対話的　⇒　様々な人との関わり（地域、ICT、交流及び共同学習等や地域協働活動）
深い学び　⇒　実生活とつながる深い体験、具体的体験、生活への般化
個別最適な学び、協働的な学び　⇒多様な学び方、ICT（自学自習）、分業と協働

【教職員としての専門性】
- 人権意識　・障がい特性の理解　・知識・技能・経験・柔軟性・穏やかさ・思いやり
- 共感的理解と協働（納得解）　・良さ、意欲、自信を引き出す指導（期待感を持つ授業）
- 説明力（なぜ、何のために。実生活との結びつき）
- 自ら主体的に学ぶ意欲【教員：北海道における教員育成指標】

校訓（本校生徒、教職員の信条）「健康　誠実　努力　創造」

学校教育目標（実現を目指す姿）
～夢･チャレンジ･実現～　「希望に向かって挑戦する明るく力強く生きる生徒を育てる」

基　本　姿　勢
～学校コミュニティ（生徒、教職員、保護者、地域）におけるウェルビーイングの実現、向上～

（何ができるようになるのか
【“働く生活を続けられる人として”（目指す社会人像）】
1　たくましいこころとからだ：体力、気持ち
2　頼もしい意欲、主体性：自分から動く
3　相手を思いやるコミュニケーション：動機（こころ、気持ち）
4　気持ちのよいコミュニケーション：技術（スキル）
5　状況を見て自分のとるべき言動を判断する
6　周りの大人に相談し助言を受け入れる：困ったときこそ自分から相談する

主体的、対話的で深い学び　知・徳・体の獲得（生きる力）

何が身についたのか
- ○　学習活動の振り返り（自己評価、他者評価）
- ○　個別の教育支援計画、個別の指導計画
- ○　通知表（振り返り、意欲、励み）

何を学ぶか（学習指導要領に基づき）
- ○　自立活動（主体的に。生きやすさ、学びやすさ）
- ○　教科別の指導
- ○　各教科等合わせた指導
- ○　特別活動
- ○　総合的な探究の時間
- ○　道徳

どのように学ぶか
- ○　「自立と社会参加」を目指し実生活に活かすための知識、技能を体験的に学ぶ
- ○　ICT 等を活用し自ら学ぶこと（個別最適な学び）と仲間と共に学ぶこと（協働的な学び）
- ○　地学協働
- ○　交流及び共同学習
- ○　情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・より良く解決する学び

【学校が目指す姿：安心・安全】
1　地域とともに生徒の社会性（主体性、協働性、道徳性）を育む学校
2　生徒の人権を尊重し、きめ細かく丁寧な教育を行い、一人一人の能力を確かに伸ばす学校
3　生徒が明るく元気に学ぶ(期待感を持てる)活力ある学校
4　地域の特別支援教育の拠点となる学校

【教職員が目指す姿：専門性、人権尊重、安心・安全】
1　主体的、対話的に学び続ける教職員
2　生徒の心情に寄り添い、卒業後の自立(自律)と社会参加を踏まえた丁寧かつ具体的な指導をする教職員
3　良好なコミュニケーションに基づき、互いの良さを認め合い、連携・協働する教職員
4　教育公務員として服務規律を遵守して、礼節を大切にする教職員（雨竜高等養護学校【職員】の行動指針）

本校の教育活動指針　自立と社会参加（社会への移行、働く生活とその基盤となる生活の充実、よりよい支援の活用：生活に根ざす）
- ○　安心・安全な学校（心理的安全性、いじめ、不登校の未然防止、災害や感染症などに対する未然防止）
- ○　生徒の人権尊重（体罰及び不適切な指導の未然防止、接遇、呼称等）
- ○　“挑戦と改善”（trial and error）
- ○　生徒が「なぜ、何のために、何につながるのか」が分かり「できた，分かった、またやりたい、もっと知りたい･･･」と思う（ドキドキ、ワクワクする）授業　→　生活に根ざした教育の推進、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ○　指導と評価の一体化（授業改善）
- ○　教務、舎務、事務との連携（限られたリソースの有効活用、工夫）
- ○　地域や関係機関と連携･協働した教育活動（人的、物的資源の積極的な活用、地域貢献活動と地域協働活動）
- ○　（幼･保）小・中とのつながり、交流及び協働学習の推進（改善、工夫）
- ○　情報共有、相互理解、合意形成、同僚性、協働性、組織的対応
- ○　保護者、地域との対話、共感的理解、合意形成
- ○　生徒・保護者のニーズの把握と対話
- ○　寄宿舎生活の充実（限られたリソースの中で工夫した生活力の向上：生活指導、余暇活動）

主　体　的　に　学　び　続　け　る　教　職　員　（　研　修　・研　究　の　充　実　）